

全国学力・学習状況調査結果について

丹波市立南小学校 校長 藪内 大介

調査の概要

【期 日】令和4年4月19日（火）

【調査対象】丹波市立南小学校 第6学年

【調査内容】

①国語 ②算数 ③理科 ④児童質問紙

各教科：基礎・基本的な問題及び活用・発展的な問題を一体的に問う問題

児童質問紙：学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面などに関する調査

国語科の調査結果

国語科では、「言語に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を選択式、短答式、記述式で回答する調査でした。

全国や他校との比較はできませんが、特に知識及び技能の領域にあたる「言語に関する事項」や「読むこと」では平均正答率が高く、日ごろの学習効果がよく表れていると考えます。「話し言葉と書き言葉の違いを理解する」問題や「登場人物の行動や気持ちについて、叙述を基に捉える」問題などは、9割以上の児童が正答していました。

しかし、「話すこと・聞くこと」の内容で「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」問題では、課題が見られました。

これまで本校の課題としていた「よく聞いて、話す」について解消されていない面もあり、今後継続した指導が必要であると考えました。

算数科の調査結果

算数科においては、「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」を選択式、短答式、記述式で回答する調査でした。「数と計算」「データの活用」については、全体で7割以上の平均正答率となり、多様な学習課題を取り入れた問題解決的な学習の効果がよく表れていると考えます。

「示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる」「表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数をもとめることができる」問題では、8割以上の児童が正答していました。

しかし、「変化と関係」の内容で、「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる」問題や、「図形」の内容で「示された作図の手順を基に、図形を構成する要素の着目し、平行四辺形であることを判断できる」問題では、課題が見られました。算数においては、数学的思考を伴う「見通し」や「応用」の能力について課題があるものと考えます。日常の文脈に即した文章問題の提示など工夫改善が必要であると考えます。

理科の調査結果

理科においては、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」をそれぞれ柱とする領域で選択式、短答式、記述式で回答する調査でした。「生命」を柱とする領域については、全体で8割以上の平均正答率となり、身の回りの生き物などに興味関心を持ち、観察、実験などの技能の習得と多様な学習課題を取り入れた問題解決的な学習の効果がよく表れていると考えます。

「カブトムシの育ち方等について、提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えを持つことができる」問題では、9割以上の児童が正答していました。しかし、「エネルギー」を柱とする内容で、「実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えを持つことができる」問題では、課題が見られました。観察時の目的意識、結果から思考・判断していく力をつけていくことが必要であると考えます。

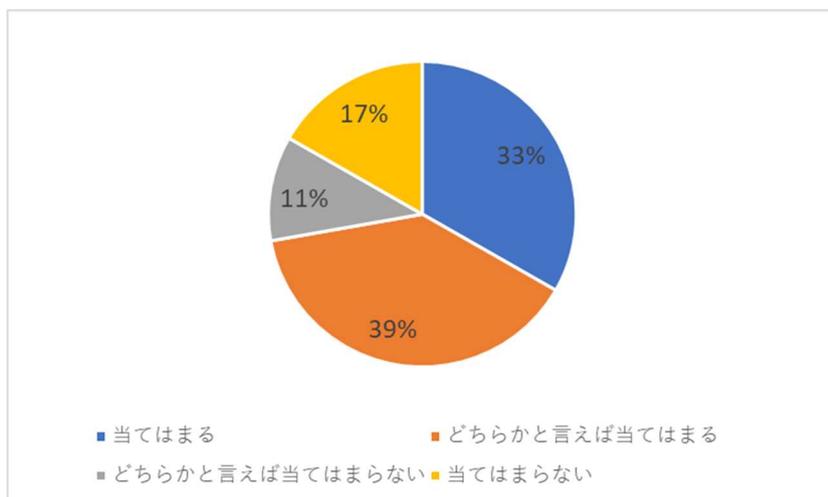
児童質問紙調査結果

(3) 児童質問紙調査

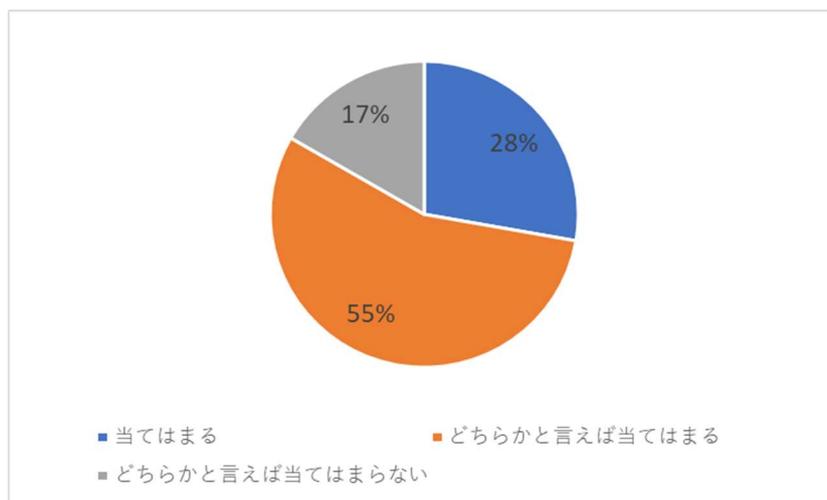
子どもたちの自学自習、自走する学びに向かう力の育成をめざし、本校の重点課題として取り組んでいる「聞く力の育成」、「対話的な学びの充実」、「自己肯定感の醸成」に関する項目を児童質問紙調査結果から抽出し、分析した。

(1) 「聞く力」の育成…目的意識をもって、能動的・主体的に話を聞けるようになっているか。

質問：自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。

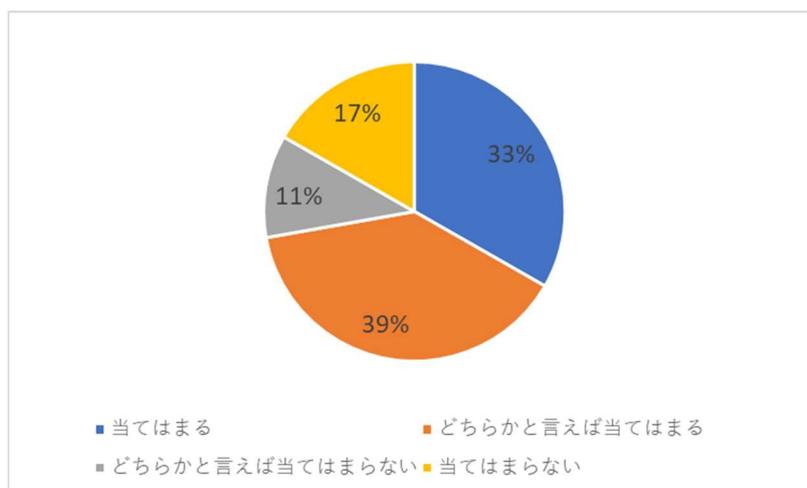


(2) 対話的な学び…子ども、教職員や地域の人との対話、書物の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。
質問：学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。



(3) 自己肯定感の醸成…学校や地域、家庭における多様な体験活動を通して強みを軸に生活できているか。

質問：自分には、よいところがあると思いますか



今後の取組

学校教育目標「地域を愛し 可能性を広げ 学びに向かう子の育成」に向けた、授業・生活改善アクションプラン（JSAP）と業務改善アクションプラン（GAP）の一体的推進を図る。

1 JSAP(授業・生活改善)の取組

- (1) 子どもの持つ能力を向上させる。(外遊び、朝体操、学習規律、読み聞かせ等)
- (2) 授業で個別最適な、練習・応用・振り返りの時間を保証する。

- (3) タブレットを全ての教科で効果的に活用する。
- (4) 複数指導体制により弾力的・最適な支援を行う。
- (5) 早寝・早起き・朝ごはんを家庭・地域とともに推進する。
- (6) 礼儀とあいさつを家庭・地域とともに身につけさせる。
- (7) 教育課程と地域学校協働活動を連携した学習活動を実施する。

2 GAP(業務改善)の取組

- (1) 前例踏襲にとらわれない、真に必要な行事・活動の精選
- (2) 業務における積極的なICTの活用
- (3) 地域による児童の学び・生活の補助、支援
- (4) 児童の学力向上と社会的自立に向けた教職員の働き方改革
(時間外の用務の縮減、定時退勤等の奨励、会議の縮減)